令和　8　年度シラバス

柔道整復スポーツ科学科

授業科目名	生理学Ⅲ			授業形態	講義	教員名	藤本　敏彦		
科目区分	専門基礎分野	単位数	2　単位	時間数	30 時間	期間	半期	15 回	対象学年	2 年生
授業概要	筋の生理、骨の生理、体温とその調節、高齢者の生理学的特徴・変化、発育と発達および競技者の生理学的特徴・変化を解説する。									
授業の到達目標	臓器が発達・発育、加齢、運動によって受ける影響を説明できる。特に日常活動に直結する筋や骨が発達・発育、加齢、運動によって受ける影響を学び説明することができるようになる。									
授業内容・計画	（授業計画） 第1週目 ガイダンス、筋の生理　構造 第2週目 筋の生理　骨格筋と心筋 第3週目 骨の生理　構造 第4週目 骨の生理　成長 第5週目 体温とその調節　節産生と放散 第6週目 体温調節 第7週目 気候順化 第8週目 高齢者の生理的特徴・変化　細胞の加齢 第9週目 高齢者の生理的特徴・変化　高齢者の特徴 第10週目 高齢者の生理的特徴・変化　運動と加齢 第11週目 発達・発育　運動能力の発達 第12週目 発達発育　運動不足と過多 第13週目 競技者の生理的特徴・変化 第14週目 期末試験 第15週目 試験解説 （授業の方法および自学学習について） 各週、予習・復習を必須とする。授業は質問形式として、回答数に合わせて平常点に加点を行う。 授業は教科書を基とした資料を配付し、その内容に沿って要点を絞って学習を行う。									
教科書・参考書等	全国柔道整復学教協会監修 生理学　改訂第4版									
成績評価の方法	定期試験　100%、予習の忘れは減点　1回5点、病欠・公欠・忌引き以外の 欠席1回5点減点、雑談による授業妨害は厳正に対処、減点とする。 ※総合成績が60/100点以上を取得した場合に単位を認定する。									
実践的教育に関する経歴等	宮城教育大学で人体生理学の講義経験 東北大学高度教養教育学生支援機構および医学系研究科運動学講座にて運動学などの講義経験 中学・高校保健体育選手免許									

令和　8　年度シラバス

柔道整復スポーツ科学科

授業科目名	運動器の構造と機能Ⅱ			授業形態	講義	教員名	佐藤　邦秀		
科目区分	専門基礎分野	単位数	4　単位	時間数	60 時間	期間	通年	30 回	対象学年	2 年生
授業概要	1年次に学習した筋骨格系についてを振り返りながら、柔道整復師の業務の根幹をなす運動器の構造と機能について理解を深める。									
授業の到達目標	1. 各関節運動とそれに関連する筋を理解する。 2. 運動神経と筋の支配関係を理解する。 3. 骨、筋、神経の位置や走行を理解する。									
授業内容・計画	（授業計画） 第1週目 関節運動の表現、骨の構造と機能 第2週目 関節の構造と機能、筋の構造と機能 第3週目 関節運動と筋の作用（上肢帯） 第4週目 関節運動と筋の作用（肩関節） 第5週目 関節運動と筋の作用（肘関節、前腕） 第6週目 関節運動と筋の作用（手関節、手指） 第7週目 関節運動と筋の作用（股関節） 第8週目 関節運動と筋の作用（膝関節） 第9週目 関節運動と筋の作用（足関節、足部） 第10週目 総合的学習（評価1） 第11週目 総合的学習（評価2） 第12週目 総合的学習（評価3） 第13週目 総合的学習（評価4） 第14週目 総合的学習（評価5） 第15週目 試験、解説 第16週目 関節運動と筋の作用（脊柱、頸椎） 第17週目 関節運動と筋の作用（胸椎、胸郭） 第18週目 関節運動と筋の作用（腰椎、骨盤） 第19週目 脊髄神経と骨格筋（上肢）1 第20週目 脊髄神経と骨格筋（上肢）2 第21週目 脊髄神経と骨格筋（下肢）1 第22週目 脊髄神経と骨格筋（下肢）2 第23週目 姿勢1 第24週目 姿勢2 第25週目 総合的学習（評価1） 第26週目 総合的学習（評価2） 第27週目 総合的学習（評価3） 第28週目 総合的学習（評価4） 第29週目 総合的学習（評価5） 第30週目 試験、解説 （授業の方法および自学学習について） ・資料を配布し、資料に基づいて板書を中心に授業を進める。必要に応じてパワーポイントで授業を行いその際は都度連絡する。授業の最後には確認問題を行い授業内容の復習を行う。 ・適宜グループワークを行う。									
教科書・参考書等	運動学改訂3版（医歯薬出版） 解剖学改訂2版（医歯薬出版） 上記を参考書として用いるので毎回準備すること									
成績評価の方法	①小テストの成績（20%）※60点未満または欠席した場合は定期試験から－2点。 （公欠対象となる欠席の場合はこの限りでなはい。） ②期末試験の成績（80%） ①、②は半期ごと行う ※総合成績が120/200点以上を取得した場合に単位を認定する。									
実践的教育に関する経歴等	柔道整復師専科教員資格									

令和　8　年度シラバス

柔道整復スポーツ科学科

授業科目名	病理学			授業形態	講義	教員名	齋藤　悠		
科目区分	専門基礎分野	単位数	2　単位	時間数	30 時間	期間	半期	15 回	対象学年	2 年生
授業概要	疾病における臓器・組織・細胞の形態的変化を理解し、正常な組織・細胞との差異を認識する。学生の将来の知見を拡げる基礎となるような、基礎的病理学知識の習得を目指す。									
授業の到達目標	①各々の組織における「疾病」とはどういう状態を指すのかを理解できるようになる。 ②「疾病」が発生する原因を理解できるようになる。 ③「疾病」を発生させないためには何を行うことが合理的な解決につながるかを考察できるようになる。									
授業内容・計画	（授業計画） 第1週目 病理学とは/疾病の一般 第2週目 退行性病変 第3週目 循環障害　血液の循環異常 第4週目 循環障害　リンパ液の循環異常 第5週目 進行性病変 第6週目 炎症　炎症の原因　炎症による組織変化 第7週目 炎症　炎症の分類 第8週目 免疫異常　抗原・抗体・リンパ球 第9週目 免疫異常　アレルギーと免疫疾患 第10週目 腫瘍　腫瘍とは　腫瘍の原因 第11週目 腫瘍　腫瘍の分類 第12週目 先天性異常　遺伝疾患・染色体異常 第13週目 先天性異常　奇形について 第14週目 病因論 第15週目 期末試験・試験解説 ＊講義の進行具合によって変更する可能性がある (授業の方法および自学学習について) ・授業は、プロジェクターによるプレゼンテーションおよび講義プリント配布形式を基本として実施する。 ・国家試験の過去問題を解きながら知識の整理に努める									
教科書・参考書等	病理学概論　改訂第3版（医歯薬出版株式会社） シンプル病理学　改訂第8版(南江堂)									
成績評価の方法	年1回の期末試験の点数（100%）で決定する。 合格点に足りない者は平常点（出席回数、授業態度など）を勘案し合否を判定する。 ※総合成績が60/100点以上を取得した場合に単位を認定する。									
実践的教育に関する経歴等	歯科医師									

令和　8　年度シラバス

柔道整復スポーツ科学科

授業科目名	一般臨床医学			授業形態	講義	教員名	洞口　亮		
科目区分	専門基礎分野	単位数	4　単位	時間数	60 時間	期間	通年	30 回	対象学年	2 年生
授業概要	柔道整復師は主に外傷の治療を行うが、それのみならず内臓疾患を有する患者の第1次医療機関の性質をも有する。内臓疾患に対しては、早期に適切な医療機関での対応が必要とされるが、その徴候を知らずして適切な対応は不可能である。本講義では、各種診察法からはじめ、各種疾患の特徴を学んでいき国民医療に寄与する医療人の育成を目指す。								
授業の到達目標	診察法及び各疾患の内科的特徴の理解								
授業内容・計画	（授業計画） 第1週目 診察概論、診察各論1 第2週目 診察各論2 第3週目 診察各論3 第4週目 診察各論4 第5週目 診察各論5 第6週目 診察各論6 第7週目 診察各論7 第8週目 検査法、呼吸器疾患1 第9週目 呼吸器疾患2 第10週目 循環器疾患1 第11週目 循環器疾患2 第12週目 循環器疾患3 第13週目 消化器疾患1、まとめ 第14週目 期末試験 第15週目 試験解説、前期のまとめ 第16週目 消化器疾患2 第17週目 肝胆膵疾患1 第18週目 肝胆膵疾患2 第19週目 栄養・代謝疾患 第20週目 内分泌疾患1 第21週目 内分泌疾患2 第22週目 血液・造血器疾患1 第23週目 血液・造血器疾患2、腎・尿路疾患1 第24週目 腎・尿路疾患2、神経疾患1 第25週目 神経疾患2 第26週目 感染症・性病、膠原病1 第27週目 膠原病2 第28週目 環境要因による疾患、まとめ 第29週目 期末試験 第30週目 試験解説、後期のまとめ （授業の方法および自学学習について） ・講義形式を主体として授業を進める。 ・授業内で必要に応じてレジメ等を配布する場合があるので、授業回ごとに整理しておくこと。								
教科書・参考書等	一般臨床医学改訂第3版(医歯薬出版、2019)を教科書とする。								
成績評価の方法	期末試験の結果 ※総合成績が60/100点以上を取得した場合に単位を認定する。								
実践的教育に関する経歴等	医師								

令和　8　年度シラバス

柔道整復スポーツ科学科

授業科目名	外科学			授業形態	講義	教員名	尾股 聡/原田 日南子/古川太志
科目区分	専門基礎分野	単位数	3 単位	時間数	45 時間	期間	通年	23 回	対象学年	2 年生
授業概要	日常で遭遇する機会の多い外科疾患およびその適切な対応について学ぶ。									
授業の到達目標	・外科的知識の基本の習得									
授業内容・計画	（授業計画） 第1週目 損傷 第2週目 損傷 第3週目 損傷 第4週目 炎症と外科感染症 第5週目 炎症と外科感染症 第6週目 腫瘍 第7週目 ショック 第8週目 ショック 第9週目 輸血、輸液 第10週目 消毒と滅菌 第11週目 手術 第12週目 麻酔 第13週目 移植と免疫 第14週目 移植と免疫 第15週目 期末試験 第16週目 出血と止血 第17週目 心肺蘇生法 第18週目 脳神経外科疾患 第19週目 脳神経外科疾患 第20週目 胸壁、呼吸器疾患 第21週目 心臓、脈管疾患 第22週目 腹部外科疾患 第23週目 期末試験 （授業の方法および自学学習について） ・講義形式を主体とするが、状況に応じてオンライン授業を取り入れる場合がある。 ・授業内で必要に応じてレジメ等を配布する場合があるので、授業回ごとに整理しておくこと。 ・後期は8回の授業となるため出席管理に注意すること。									
教科書・参考書等	外科学概論　改訂第4版（南江堂）									
成績評価の方法	出席点（15%）＋期末試験（85%）で評価する。 ・出席点は1点/回とし、最大15点とする。 ※総合成績が120/200点以上を取得した場合に単位を認定する。									
実践的教育に関する経歴等	医師									

令和　8　年度シラバス

柔道整復スポーツ科学科

授業科目名	整形外科学			授業形態	講義	教員名	尾股 聡/奥田 晋作			
科目区分	専門基礎分野	単位数	4 単位	時間数	60 時間	期間	通年	30 回	対象学年	2 年生

授業概要

多種の整形外科疾患に対応するための骨・軟骨などの運動器の基礎的知識をもとに、整形外科の基礎的治療法、スポーツ外傷感染性疾患、腫瘍を含めた身体各部の疾患を学んでいき整形外科学全般の基礎的知識の理解を目指す。

授業の到達目標

・整形外科学全般での基本的知識の習得

授業内容・計画

（授業計画）

第1週目 運動器の基礎知識、整形外科診察法	第16週目 疾患別各論：神経、筋疾患（腕神経叢損傷、分娩麻痺）
第2週目 整形外科検査法、整形外科的治療法	第17週目 疾患別各論：全身性神経、筋疾患
第3週目 骨、関節損傷総論	第18週目 疾患別各論：神経、筋疾患（脊髄腫瘍）
第4週目 スポーツ整形外科総論、リハビリテーション総論	第19週目 身体部位別各論：体幹
第5週目 疾患別各論：感染性疾患	第20週目 身体部位別各論：肩甲帯および上肢の疾患
第6週目 疾患別各論：骨および軟部腫瘍	第21週目 身体部位別各論：肩甲帯および上肢の疾患
第7週目 疾患別各論：骨および軟部腫瘍	第22週目 身体部位別各論：肩甲帯および上肢の疾患
第8週目 疾患別各論：非感染性軟部、骨関節疾患	第23週目 身体部位別各論：骨盤および下肢の疾患
第9週目 疾患別各論：全身性の骨、軟部疾患	第24週目 身体部位別各論：骨盤および下肢の疾患
第10週目 疾患別各論：骨端症	第25週目 身体部位別各論：骨盤および下肢の疾患
第11週目 疾患別各論：四肢循環障害	第26週目 問題演習
第12週目 疾患別各論：神経、筋疾患（紋扼性神経障害）	第27週目 問題演習
第13週目 疾患別各論：神経、筋疾患（紋扼性神経障害）	第28週目 問題演習
第14週目 問題演習	第29週目 問題演習
第15週目 前期期末試験	第30週目 後期期末試験

（授業の方法および自学学習について）

・講義形式を主体とするが、状況に応じてオンライン授業を取り入れる場合がある。

・授業内でレジメ等を配布する場合があるので、授業回ごとに整理しておくこと。

教科書・参考書等

整形外科学　改訂第4版（南江堂）

成績評価の方法

出席点（15%）＋期末試験（85%）で評価する。

・出席点は1点/回とし、最大15点とする。

※総合成績が120/200点以上を取得した場合に単位を認定する。

実践的教育に関する経歴等

医師

令和　8　年度シラバス

柔道整復スポーツ科学科

授業科目名	リハビリテーション医学			授業形態	講義	教員名	尾股 聡/古川 太志			
科目区分	専門基礎分野	単位数	1 単位	時間数	15 時間	期間	半期	8 回	対象学年	2 年生
授業概要	最近の医学の進歩により感染症などの急性疾患は減少し重症疾患で死に至るような患者でもその命を救うことが可能となった。しかしその結果、重い障害を残す患者が増加し、リハビリテーション医学に対する需要や期待が大きくなってきている。コメディカルの一端を担う柔道整復師としてリハビリテーションへの理解と知識を深めることを目指す。									
授業の到達目標	・リハビリテーション知識の習得									
授業内容・計画	（授業計画） 第1週目 リハビリテーションの理念～ 第2週目 リハビリテーションの対象と障害者の実態～ 第3週目 リハビリテーション評価学 第4週目 リハビリテーション評価学 第5週目 リハビリテーション障害学と治療学 第6週目 リハビリテーション障害学と治療学 第7週目 リハビリテーション医学の関連職種 第8週目 期末試験 （授業の方法および自学学習について） ・講義形式を主体とするが、状況に応じてオンライン授業を取り入れる場合がある。 ・授業内で必要に応じてレジメ等を配布する場合があるので、授業回ごとに整理しておくこと。									
教科書・参考書等	リハビリテーション医学　改訂第4版（南江堂）									
成績評価の方法	出席点（15%）＋期末試験（85%）で評価する。 ・出席点は1点/回とし、最大15点とする。 ※総合成績が60/100点以上を取得した場合に単位を認定する。									
実践的教育に関する経歴等	医師									

令和　8　年度シラバス

柔道整復スポーツ科学科

授業科目名	衛生学			授業形態	講義	教員名	馬目　歩実		
科目区分	専門基礎分野	単位数	2　単位	時間数	30 時間	期間	半期	15 回	対象学年	2 年生
授業概要	社会における柔道整復師としての立場から公衆衛生の向上を図るために必要な基礎的事項を修得し、これを応用する素養を得ることを目指す。									
授業の到達目標	組織された地域社会の努力を通して、疾病を予防し、生命を延長し、身体的、精神的機能の増進をはかる科学であり技術である。 ①疾病予防／生命の延長／身体的・精神的機能の増進　に寄与できる知識を得ること。 ②世界の平和と安全の基礎である「健康」を追究すること。									
授業内容・計画	（授業計画） 第1週目 1章 衛生学の歴史と公衆衛生活動、2章 健康の概念 第2週目 2章 健康の測定 第3週目 3章 疾病予防と健康管理 第4週目 4章 感染症の予防 第5週目 5章 消毒、6章 環境衛生 第6週目 6章 環境衛生 第7週目 7章 生活環境・食品衛生 第8週目 8章 母子保健、9章 学校保健 第9週目 9章 学校保健、10章 産業保健 第10週目 10章 産業保健、11章 成人・高齢者保健 第11週目 12章 精神保健、13章 地域保健と国際保健 第12週目 14章 衛生行政と保健医療 第13週目 15章 医療倫理、16章 疫学 第14週目 期末試験 第15週目 試験解説 （授業の方法および自学学習について） ・授業は、パワーポイントによるスライドと講義プリント配布形式を基本として実施する。									
教科書・参考書等	「衛生学・公衆衛生学　改訂第6版」 南江堂									
成績評価の方法	年1回の期末試験（マークシート形式） ※総合成績が60/100点以上を取得した場合に単位を認定する。									
実践的教育に関する経歴等	歯科医師									

令和　8　年度シラバス

柔道整復スポーツ科学科

授業科目名	柔道Ⅰ			授業形態	実技	教員名	小原　賢		
科目区分	専門基礎分野	単位数	1　単位	時間数	30 時間	期間	半期	15 回	対象学年	2 年生
授業概要	柔道の歴史を学び、理念のもと礼法、受身、投の形の基本を鍛錬習得する。									
授業の到達目標	柔道理念の理解を深める。 礼法、受身、投の形（手技・腰技・足技）の習得									
授業内容・計画	（授業計画） 第1週目　オリエンテーション　礼法・受け身 第2週目　礼法・受け身・投の形（手技①浮落） 第3週目　礼法・受け身・投の形（手技②背負投） 第4週目　礼法・受け身・投の形（手技③肩車） 第5週目　礼法・受け身・投の形（腰技①浮腰） 第6週目　礼法・受け身・投の形（腰技②払腰） 第7週目　礼法・受け身・投の形（腰技③釣込腰） 第8週目　礼法・受け身・投の形（足技①送足払） 第9週目　礼法・受け身・投の形（足技②支釣込足） 第10週目　礼法・受け身・投の形（足技③内股） 第11週目　礼法・受け身・投の形・約束乱取 第12週目　礼法・受け身・投の形・約束乱取 第13週目　実技試験の内容説明　資料配布 第14週目　実技試験 第15週目　実技試験の評価・点検 （授業の方法および自学学習について） 1）柔道場にて実技の授業となる。柔道衣・装飾類に留意すること。 2）柔道の基本動作・受身・礼法・投の形の習得を目指す。 3）実技試験にて評価する。 4）授業終了後は当日の教室当番が清掃し教室へ戻ること。 5）常時安全・衛生に留意する。									
教科書・参考書等	「柔道」の教科書、WEB動画									
成績評価の方法	第14回 授業日に実技試験を実施。評価方法は、服装と態度(2点)、礼法(6点)、受身(4点)、投の形(8点)、約束乱取(5点) 合計25点×4＝100点とし、評価する。 評価内容は認定実技審査の評価表に則る。 ※総合成績が60/100点以上を取得した場合に単位を認定する。									
実践的教育に関する経歴等	柔道整復師、柔道整復師専科教員									

令和　8　年度シラバス

柔道整復スポーツ科学科

授業科目名	柔道整復各論Ⅱ			授業形態	講義	教員名	半澤　優		
科目区分	専門分野	単位数	2　単位	時間数	60 時間	期間	通年	30 回	対象学年	2 年生
授業概要	各損傷の概要や、発生機序、症状、整復法、固定等を学び、臨床現場で判断し、対応できる知識の習得を図る。実際の臨床現場で扱うことの多い損傷に関しては、整復、固定等実技の習得も図る。 また、本講義では各損傷の理解を深めるために運動器の解剖学的知識の復習を行う。								
授業の到達目標	1）解剖学、運動学的視点からの各損傷の理解 2）臨床上重要となる特徴の理解 3）各損傷における柔道整復術の修得								
授業内容・計画	（授業計画） 第1週目 頭蓋機能解剖1 第2週目 頭蓋機能解剖2 第3週目 頭蓋骨骨折1 第4週目 頭蓋骨骨折2 第5週目 頭蓋骨骨折3 第6週目 脊柱機能解剖1 第7週目 脊柱機能解剖2 第8週目 ＜前期中間試験＞ 第9週目 頸椎骨折1 第10週目 頸椎骨折2 第11週目 胸椎骨折1 第12週目 胸椎骨折2 第13週目 腰椎骨折 第14週目 前期復習 第15週目 〈前期期末試験〉 第16週目 肋骨機能解剖 第17週目 肋骨骨折1 第18週目 肋骨骨折2 第19週目 胸骨骨折 第20週目 顎関節脱臼1 第21週目 顎関節脱臼2 第22週目 脊椎脱臼 第23週目 〈後期中間試験〉 第24週目 頭部/顔面打撲 第25週目 顎関節症 第26週目 外傷性頸部症候群（むちうち） 第27週目 胸郭出口症候群 第28週目 寝違え 第29週目 後期復習 第30週目 〈後期期末試験〉 （授業の方法および自学学習について） ・許可なく授業内容の撮影/録音/SNSへの投稿は禁止とする。 ・授業中の飲料摂取を許可する。								
教科書・参考書等	社）全国柔道整復学校協会　監修『柔道整復学・理論編（改訂第7版）』 南江堂 社）全国柔道整復学校協会　監修『柔道整復学・実技編（改訂第2版）』 南江堂 他、授業内容に応じて資料を配布する。								
成績評価の方法	【前期】中間試験：30%　期末試験：70% 【後期】中間試験：50%　期末試験：50% ※総合成績が120/200点以上を取得した場合に単位を認定する。								
実践的教育に関する経歴等	柔整専科教員免許								

令和　8　年度シラバス

柔道整復スポーツ科学科

授業科目名	柔道整復各論Ⅲ			授業形態	講義	教員名	佐藤　邦秀		
科目区分	専門分野	単位数	2　単位	時間数	60 時間	期間	通年	30 回	対象学年	2 年生

授業概要

各損傷の概要や、発生機序、症状、整復法、固定等を学び、臨床現場で判断し、対応できる知識の習得を図る。実際の臨床現場で扱うことの多い損傷に関しては、整復、固定等実技の習得も図る。また、本講義では各損傷の理解を深めるために運動器の解剖学的知識の復習を行う。

授業の到達目標

1）解剖学、運動学的視点からの各損傷の理解
2）臨床上重要となる特徴の理解
3）各損傷における柔道御整復術の修得

授業内容・計画

（授業計画）

第1週目 授業オリエンテーション、橈骨近位端部骨折	第16週目 基節骨骨折
第2週目 橈骨近位端部骨折	第17週目 中節骨骨折
第3週目 肘頭骨折	第18週目 末節骨骨折
第4週目 橈骨骨幹部骨折、ガレアジ骨折、尺骨骨幹部骨折	第19週目 マレットフィンガー
第5週目 モンテギア骨折	第20週目 指骨骨折
第6週目 橈・尺両骨骨幹部骨折	第21週目 前腕両骨脱臼
第7週目 小テスト/テストの振り返り	第22週目 前腕両骨脱臼
第8週目 コーレス骨折	第23週目 橈骨頭単独脱臼、肘内障
第9週目 コーレス骨折	第24週目 遠位橈尺関節脱臼、月状骨脱臼
第10週目 スミス・バートン・ショウファー骨折等	第25週目 第1指中手指節関節脱臼
第11週目 舟状骨骨折、その他手根骨骨折	第26週目 第1指以外の中手指節関節脱臼
第12週目 中手骨骨頭部骨折、中手骨頸部骨折	第27週目 近位指節間関節脱臼
第13週目 中手骨骨幹部骨折、第1中手骨基部骨折等	第28週目 遠位指節間関節脱臼
第14週目 期末テスト対策	第29週目 期末テスト対策
第15週目 期末テスト	第30週目 期末テスト

（授業の方法および自学学習について）
・資料を配布し、資料に基づいて板書を中心に授業を進める。授業の最後に確認問題を行い授業内容の復習をする。
・関係する運動器系の内容も試験範囲とするため、各自復習を行う
・授業進度に基づき、前期・後期に各1回小テストを行う。
※小テストの実施時期については都度連絡する。

教科書・参考書等

社）全国柔道整復学校協会　監修『柔道整復学・理論編（改訂第7版）』 南江堂
社）全国柔道整復学校協会　監修『柔道整復学・実技編（改訂第2版）』 南江堂

成績評価の方法

① 小テストの成績（20%）※60点未満または欠席した場合は定期試験から－2点。
（公欠対象となる欠席の場合はこの限りでなはい。）
② 定期試験の成績（80%）

※総合成績が120/200点以上を取得した場合に単位を認定する。

実践的教育に関する経歴等

柔道整復専科教員資格

令和　8　年度シラバス

柔道整復スポーツ科学科

授業科目名	柔道整復各論Ⅳ			授業形態	講義	教員名	谷藤　淳史			
科目区分	専門分野	単位数	2　単位	時間数	60 時間	期間	通年	30 回	対象学年	2 年生
授業概要	臨床現場で遭遇しやすい柔道整復術適応疾患で比較的多い、軟部組織損傷に対する症状、施術方法、予後などを講義にて論ずる。									
授業の到達目標	・臨床上重要な上肢の軟部組織損傷の病態、検査法および施術方法を理解する。 ・各損傷のメカニズム、特徴を明確に捉えて、臨床現場等で求められる、素早い判断能力と適切な処置が行えるようにするための理論を養う。 ・小テスト、期末テストを通じて、国家試験に対応できる知識を習得する。									
授業内容・計画	（授業計画） 第1週目 オリエンテーション、腱板断裂① 第2週目 腱板断裂②、上腕二頭筋長頭腱損傷 第3週目 ベネット損傷、SLAP損傷 第4週目 肩峰下インピンジメント症候群、リトルリーガー肩 第5週目 動揺性肩関節、肩甲上神経絞扼障害、腋窩神経絞扼障害 第6週目 五十肩、上腕部の軟部組織損傷（小テスト対策） 第7週目 前期小テスト 第8週目 肘関節側副靱帯損傷、肘関節後外側不安定症 第9週目 野球肘 第10週目 テニス肘 第11週目 パンナー病、変形性肘関節症 第12週目 前腕コンパートメント症候群、腱交叉症候群 第13週目 前期総復習 第14週目 前期期末テスト 第15週目 前期期末テスト解説 第16週目 正中神経障害、回内筋症候群、前骨間神経麻痺 第17週目 橈骨神経麻痺、後骨間神経麻痺 第18週目 尺骨神経障害、肘部管症候群 第19週目 三角線維軟骨複合体損傷、ド・ケルバン病 第20週目 手根管症候群、尺骨神経管症候群 第21週目 キーンベック病、マーデルング変形(小テスト対策) 第22週目 後期小テスト 第23週目 指側副靱帯損傷、ロッキングフィンガー 第24週目 ばね指、デュプイトラン拘縮、ヘバーデン結節 第25週目 ボタン穴変形、スワンネック変形 第26週目 臨床徒手検査法① 第27週目 臨床徒手検査法② 第28週目 後期総復習 第29週目 後期期末テスト 第30週目 後期期末テスト解説 (授業の方法および自学学習について) 講義方法は範囲によって板書中心、教科書中心、プリント中心と変化する。詳細は都度説明する。 講義中、許可のない撮影及び録音は禁止とし、発覚した場合は単位修得を認めない。 各学期の小テスト及び期末テストは、講義の進行状況により日程、内容を変更する場合がある。									
教科書・参考書等	教科書:(社)全国柔道整復学校協会監修『柔道整復学・理論編（改訂第7版）』南江堂 教科書:(社)全国柔道整復学校協会監修『柔道整復学・実技編（改訂第2版）』南江堂									
成績評価の方法	前期:前期小テスト及び前期期末テストの合計が60点以上の場合に合格とする。 （不合格の場合は前期再テストの対象となる。） 後期:後期小テスト及び後期期末テストの合計が60点以上の場合に合格とする。 （不合格の場合は後期再テストの対象となる。ただし、前期との合計が120点に到達する場合は再テストを免除とし、単位修得を認める。） ※総合成績が120/200点以上を取得した場合に単位を認定する。									
実践的教育に関する経歴等	柔道整復専科教員資格									

令和　8　年度シラバス

柔道整復スポーツ科学科

授業科目名	柔道整復各論Ⅴ			授業形態	講義	教員名	鈴木美加		
科目区分	専門分野	単位数	2　単位	時間数	60 時間	期間	通年	30 回	対象学年	2 年生
授業概要	骨盤部～下腿遠位端部の骨折、股関節部～足・趾部の脱臼について、各部位の解剖学的特徴を基に、概要、症状、治療法を学ぶ。									
授業の到達目標	1）骨盤部～足趾部の解剖学的特徴の理解の習得 2）骨盤部～下腿遠位端部骨折の概要、判断、治療法の習得 3）股関節部～足趾部の脱臼の概要、判断、治療法の習得									
授業内容・計画	（授業計画） 第1週目 A・骨盤骨骨折 第2週目 A・骨盤骨骨折 第3週目 B・大腿骨骨折 第4週目 B・大腿骨骨折 第5週目 B・大腿骨骨折 第6週目 B・大腿骨骨折 第7週目 B・大腿骨骨折 第8週目 B・大腿骨骨折 第9週目 C・膝蓋骨骨折 第10週目 D・下腿骨骨折 第11週目 D・下腿骨骨折 第12週目 D・下腿骨骨折 第13週目 前期総復習 第14週目 期末試験 第15週目 試験解説、問題演習 第16週目 D・下腿骨骨折 第17週目 D・下腿骨骨折 第18週目 D・下腿骨骨折 第19週目 D・下腿骨骨折 第20週目 A・股関節脱臼 第21週目 A・股関節脱臼 第22週目 A・股関節脱臼 第23週目 B・膝蓋骨脱臼 第24週目 B・膝蓋骨脱臼 第25週目 C・膝関節脱臼 第26週目 D・足部の脱臼 第27週目 D・下腿骨骨折(復習) 第28週目 後期総復習 第29週目 期末試験 第30週目 試験解説、問題演習 (授業の方法および自学学習について) ・資料を配布し、資料に基づいて授業を行うことを基本とする。 ・授業の進行に伴い、小テストを行う。小テストも成績評価に含める。 ・授業ごと、必ず復習を行い小テストに臨むこと。 ・小テストで不十分だったところは期末試験までにしっかり復習すること。 ・授業中の携帯電話の使用(録音、録画等含む)、SNS等への投稿を認めない。 ・水分補給は、休憩時間に行うこと。									
教科書・参考書等	(社)全国柔道整復学校協会　監修『柔道整復学・理論編(改訂第7版)』 南江堂 (社)全国柔道整復学校協会　監修『柔道整復学・実技編(改訂第2版)』 南江堂 (社)全国柔道整復学校協会　監修『解剖学(改訂第2版)』 医歯薬出版									
成績評価の方法	①小テスト(20%)※半期ごと5回を予定しており、受験2点、60%以上2点とする。 やむを得ず欠席した場合は、次の授業の前日昼休みまでに受験し60%以上であれば2点を加点する。 ②期末試験の成績(80%) ※総合成績が120/200点以上を取得した場合に単位を認定する。									
実践的教育に関する経歴等	クリニック・整骨院勤務									

令和　8　年度シラバス

柔道整復スポーツ科学科

授業科目名	柔道整復各論Ⅵ			授業形態	講義	教員名	古小高 朗浩		
科目区分	専門分野	単位数	2 単位	時間数	60 時間	期間	通年	30 回	対象学年	2 年生

授業概要

・各種損傷の概要、発生機序、症状、治療法の学習
・各種外傷に関連する解剖学的内容の学習

授業の到達目標

・各種損傷の概要、発生機序、症状、治療法を学び、臨床現場で対応できる知識の習得を目指す。
・定期的に実施する問題演習や小テストにより、安定した学力の定着を図る。

授業内容・計画

（授業計画）

第1週目	胸背部の軟部組織損傷	第16週目	下腿部の軟部組織損傷
第2週目	腰部の軟部組織損傷	第17週目	下腿部の軟部組織損傷
第3週目	腰部の軟部組織損傷	第18週目	足関節部の軟部組織損傷
第4週目	腰部の軟部組織損傷	第19週目	足関節部の軟部組織損傷
第5週目	股関節部の軟部組織損傷	第20週目	足関節部の軟部組織損傷
第6週目	股関節部の軟部組織損傷	第21週目	足趾部の軟部組織損傷
第7週目	大腿部の軟部組織損傷	第22週目	足趾部の軟部組織損傷
第8週目	大腿部の軟部組織損傷	第23週目	足趾部の骨折
第9週目	大腿部の軟部組織損傷	第24週目	足趾部の骨折
第10週目	膝関節部の軟部組織損傷	第25週目	足趾部の骨折
第11週目	膝関節部の軟部組織損傷	第26週目	足趾部の骨折
第12週目	膝関節部の軟部組織損傷	第27週目	足趾部の骨折
第13週目	膝関節部の軟部組織損傷	第28週目	足趾部の骨折
第14週目	前期試験	第29週目	後期試験
第15週目	前期試験返却/解説	第30週目	後期試験返却/解説

(授業の方法および自学学習について)

・授業は板書を中心に行い、チョーク各色を頻繁に使用するため、それに対応できるペンを準備できることが望ましい。
・自学学習は教科書を読み学習することを勧める。また、授業中に板書した内容を参考資料として使用することが望ましい。

教科書・参考書等

・柔道整復学・理論編（改定第7版）
・柔道整復学・実技編（改定第2版）

成績評価の方法

◆小テストの成績および期末試験成績（100%）を100点法によって評価する。
　＊小テストは60点未満を不合格とし、その場合、期末試験成績より2点を減点する。（公欠対象となる欠席の場合はこの限りではない。）
　＊小テストの実施時期は都度連絡することとする。
※総合成績が120/200点以上を取得した場合に単位を認定する。

実践的教育に関する経歴等

柔道整復師専科教員免許

令和　8　年度シラバス

柔道整復スポーツ科学科

授業科目名	柔道整復応用実技Ⅰ			授業形態	実技	教員名	菅野 貴宏		
科目区分	専門分野	単位数	2 単位	時間数	60 時間	期間	通年	30 回	対象学年	2 年生

授業概要	主要な骨折・脱臼の診察・整復法・固定法をテーマに実技演習を行う。 実際の応急手当を想定した実技であるため、それに伴う心構え、身だしなみの指導を含めて学習する。
授業の到達目標	1）各傷病を判断する際に重要な所見を確認することができる。 2）各傷病の固定法の手順を理解して正しく施行することができる。 3）助手の役割を理解して必要な行動ができる。
授業内容・計画	（授業計画） 第1週目 授業オリエンテーション、基本包帯法 第2週目 基本包帯法、鎖骨骨折の診察と整復 第3週目 基本包帯法、鎖骨骨折の診察と整復 第4週目 鎖骨骨折の固定 第5週目 基本包帯法、肩鎖関節上方脱臼の診察と整復 第6週目 基本包帯法、肩鎖関節上方脱臼の診察と整復 第7週目 肩鎖関節上方脱臼の固定 第8週目 基本包帯法、肩関節前方脱臼の診察と整復 第9週目 基本包帯法、肩関節前方脱臼の診察と整復 第10週目 肩関節前方脱臼の固定 第11週目 前期のまとめ 第12週目 実技試験 第13週目 実技試験 第14週目 実技試験/筆記試験対策 第15週目 筆記試験、後期授業について 第16週目 上腕骨外科頸外転型骨折の診察と整復 第17週目 上腕骨外科頸外転型骨折の診察と整復 第18週目 上腕骨骨幹部骨折の固定 第19週目 コーレス骨折の診察と整復 第20週目 コーレス骨折の診察と整復 第21週目 コーレス骨折の固定 第22週目 肘関節後方脱臼の診察と整復 第23週目 肘関節後方脱臼の診察と整復 第24週目 肘関節後方脱臼の固定 第25週目 第5中手骨頸部骨折の固定 第26週目 後期のまとめ 第27週目 実技試験 第28週目 実技試験 第29週目 実技試験/筆記試験対策 第30週目 筆記試験、1年間の振り返り (授業の方法および自学学習について) ・白衣着用を基本とし、固定や診察時は上半身はTシャツで実施する。 ・固定の授業では必要な材料を準備して参加すること。 ・授業外での自主練習をしっかり行うこと。 ・各傷病については教科書等で予習をしてから授業に参加すること。 ・極端な髪色、ピアスや指輪等の装飾品をつけた場合、学期末成績から5点ずつ減点とする。
教科書・参考書等	・柔道整復学理論編改訂第7版、実技編改訂第2版、包帯固定学改訂第2版を参考書とする。理論編は必ず持参すること。（実技編や包帯固定学は実技進行に応じて準備）
成績評価の方法	各学期の成績は次の項目から算出するが、60点未満の場合は追加で課題を課す場合がある。 1）実技試験（60%） 2）筆記試験（20%） 3）課題評価（20%） 4）身だしなみによる減点　＊1回につき5点を各学期の成績から減点する（初回授業で説明） ※総合成績が120/200点以上を取得した場合に単位を認定する。
実践的教育に関する経歴等	柔道整復専科教員、認定実技審査員（整復実技・柔道実技）

令和　8　年度シラバス

柔道整復スポーツ科学科

授業科目名	柔道整復応用実技Ⅱ			授業形態	実技	教員名	津田新吾		
科目区分	専門分野	単位数	2 単位	時間数	60 時間	期間	通年	30 回	対象学年	2 年生

授業概要

運動器疾患の診かた（評価と治療）の概念を理解し、包括的なアプローチが実践出来る事を目指す。
本科目は、日本スポーツリハビリテーション学会（JSSR)認定トレーナー資格関連科目である。

授業の到達目標

①運動器疾患の診かたを理解出来る。
②疾患の病態ならびに障がい像を説明できる。
③基本的な徒手検査及び後療法を、健常者を対象に実施・説明することができる。

授業内容・計画

（授業計画）

第1週目 運動器疾患の診かた	第16週目 頸部
第2週目 徒手医学用語1	第17週目 頸部
第3週目 徒手医学用語2	第18週目 肩関節
第4週目 徒手的機能診断	第19週目 肩関節
第5週目 触診・運動検査	第20週目 肘関節
第6週目 臨床推理	第21週目 手関節
第7週目 徒手療法実技1	第22週目 腰部
第8週目 徒手療法実技2	第23週目 骨盤・股関節
第9週目 徒手療法実技3	第24週目 骨盤・股関節
第10週目 徒手療法実技4	第25週目 膝関節
第11週目 徒手療法実技5	第26週目 膝関節
第12週目 徒手療法実技6	第27週目 膝関節・足関節
第13週目 徒手療法実技7	第28週目 総合演習
第14週目 実技試験	第29週目 実技試験
第15週目 期末テスト	第30週目 期末試験

(授業の方法および自学学習について)
実技演習は必ず運動着着用の事
実技は復習をしっかり行う事、 期末試験は授業内の配布資料等を中心に復習する事

教科書・参考書等

前期：標準徒手医学入門編運動器疾患の徒手的機能診断と治療
日本スポーツリハビリテーション学会JSSR認定トレーナーテキスト
後期：南江堂柔道整復理論編（改定第7版）

成績評価の方法

筆記試験　70%　到達目標①②　実技試験　30%　到達目標②・③　　※筆記試験：四択及び記述あり
実技評価基準　S（30）適切な手順で十分正確に実施ができる　A（25）適切な手順で正確に実施ができる
B（20）適切な手順である程度正確に実施ができる　C（10）ある程度行えるが、技術の正確性に欠ける
D（5）説明と実施ができない
※総合成績が120/200点以上を取得した場合に単位を認定する。

実践的教育に関する経歴等

柔道整復師・柔道整復専科教員　NSCA-CSCS

令和　8　年度シラバス

柔道整復スポーツ科学科

授業科目名	柔道整復応用実技Ⅲ			授業形態	実技	教員名	津田新吾		
科目区分	専門分野	単位数	1 単位	時間数	30 時間	期間	半期	15 回	対象学年	2 年生

授業概要

柔道整復師・トレーナーが行う評価および後療法に必要な触診技術を身につけるため、
実技をとおして学習する。
本科目は、日本スポーツリハビリテーション学会（JSSR)認定トレーナー資格関連科目である。

授業の到達目標

① 後療法に必要な主要な骨・関節・筋・神経・血管の解剖学について説明できる。
② 柔道整復師・トレーナーの施術に必要な骨・関節・筋・神経・血管を触診できる。

授業内容・計画

（授業計画）

第1週目 触診の基本
第2週目 骨盤・股関節1
第3週目 骨盤・股関節2
第4週目 膝関節1
第5週目 膝関節2
第6週目 足関節1
第7週目 足関節2
第8週目 頸椎
第9週目 頭部・頸部
第10週目 肩・肘関節1
第11週目 肩・肘関節2
第12週目 手関節・手指部
第13週目 前腕～手指部1
第14週目 実技試験
第15週目 筆記試験

(授業の方法および自学学習について)
実技ができる服装で出席すること。
服装はジャージのインナーに肩を表出できるTシャツと大腿全体を表出できる半ズボンを着用すること。
実技は復習をしっかり行う事、 期末試験は授業内の配布資料等を中心に復習する事

教科書・参考書等

運動療法のための機能解剖学的触診技術 動画プラス　上肢 メジカルビュー社
運動療法のための機能解剖学的触診技術 動画プラス　下肢・体幹

成績評価の方法

筆記試験 70% 到達目標① 実技試験 30% 到達目標①・② 筆記試験：四択及び記述あり
実技評価基準 S（30） 適切な手順で十分正確に触診ができる A（25） 適切な手順で正確に触診ができる
B（20） 適切な手順である程度正確に触診ができる C（10） ある程度の手順で触診が行えるが、技術の正確性に欠ける
D（5） 触診の説明と実施ができない
※総合成績が60/100点以上を取得した場合に単位を認定する。

実践的教育に関する経歴等

柔道整復師・柔道整復専科教員　NSCA-CSCS

令和　8　年度シラバス

柔道整復スポーツ科学科

授業科目名	外傷予防の実際Ⅱ			授業形態	実技	教員名	津田新吾		
科目区分	専門分野	単位数	1 単位	時間数	30 時間	期間	半期	15 回	対象学年	2 年生

授業概要

運動が身体に及ぼす影響を理解し、外傷や障害を予防するための基礎的な知識と実践方法を学ぶ。
さらに、生理学的観点から運動時の身体反応を理解し、安全な運動処方に必要な考え方を身につける。
講義と実技を通して、日常生活やスポーツ現場で活用できる予防の視点を養う。
本科目は、日本スポーツリハビリテーション学会（JSSR)認定トレーナー資格関連科目である。

授業の到達目標

① 運動が身体に及ぼす影響を理解し、コンディションの変化を評価できる。
② エネルギー代謝、筋機能、呼吸・循環、ホルモンの働きを踏まえ、運動処方との関連を考察できる。
③ 運動時の疲労やリスクを理解し、安全管理に配慮した運動を実施できる。

授業内容・計画

（授業計画）

第1週目 身体反応と運動処方の基礎・リスク評価
第2週目 身体反応と運動処方（エネルギー代謝系①）
第3週目 身体反応と運動処方（エネルギー代謝系②）
第4週目 身体反応と運動処方（エネルギー代謝系③）
第5週目 身体反応と運動処方（筋力系①）
第6週目 身体反応と運動処方（筋力系②）
第7週目 身体反応と運動処方（筋力系③）
第8週目 身体反応と運動処方（呼吸・循環系①）
第9週目 身体反応と運動処方（呼吸・循環系②）
第10週目 身体反応と運動処方（呼吸・循環系③）
第11週目 身体反応と運動処方（ホルモン系①）
第12週目 身体反応と運動処方（ホルモン系②）
第13週目 身体反応と運動処方（ホルモン系③）
第14週目 実技試験
第15週目 期末試験

（授業の方法および自学学習について）

講義内容を講義と実技により体感的に習得し、運動生理学的理解と外傷予防の実践力を高める。
自学自習においては、資料等を十分に復習する事。
また学生自身も運動を継続的に実践し、自身の外傷予防と生理学的観点からの身体の理解を図りながら
自己管理能力を養うことを求める。

教科書・参考書等

全国柔道整復学校協会監修教科書　競技者の外傷予防　(公社)全国柔道整復学校協会　監修／小林直行・髙橋康輝　著
NSCAジャパンストレングス＆コンディショニング　エクササイズ・バイブル　NSCAジャパンヒューマンパフォーマンスセンター【著】/福永 哲夫【監修】
その他、教科書は授業内で提示する。

成績評価の方法

筆記試験　70%　到達目標①②　実技試験　30%　到達目標③　　※筆記試験：四択及び記述あり
実技評価基準　S（30）適切な手順で十分正確に実施ができる　A（25）適切な手順で正確に実施ができる
B（20）適切な手順である程度正確に実施ができる　C（10）ある程度行えるが、技術の正確性に欠ける
D（5）説明と実施ができない
※総合成績が60/100点以上を取得した場合に単位を認定する。

実践的教育に関する経歴等

柔道整復師・柔道整復専科教員　NSCA-CSCS

令和　8　年度シラバス

柔道整復スポーツ科学科

授業科目名	臨床実習Ⅰ			授業形態	実技・実習	教員名	大村　裕		
科目区分	専門分野	単位数	1　単位	時間数	45 時間	期間	通年	30 回	対象学年	2 年生
授業概要	1年次に学習した知識や技術をもとに、卒後接骨院で働く上で必要な技能の習得を図る。 本科目は附属接骨院内での見学実習または演習を基本とする。									
授業の到達目標	・医療従事者として適切な態度や行動を示すことができる。 ・来院患者の応対について適切に説明することができる。 ・医療面接において必要な情報を聴取し、記録することができる。 ・診察において必要な徴候を確認、評価して記録することができる。									
授業内容・計画	（授業計画） 第1週目 接骨院における業務の概要 第2週目 医療面接と身体診察1 第3週目 医療面接と身体診察2 第4週目 医療面接と身体診察3 第5週目 医療面接と身体診察4 第6週目 医療面接と身体診察5 第7週目 医療面接と身体診察6 第8週目 医療面接と身体診察7 第9週目 医療面接と身体診察8 第10週目 医療面接と身体診察9 第11週目 実習まとめ 第12週目 実習内評価試験 第13週目 実習内評価試験 第14週目 実習内評価試験 第15週目 実習振り返り、後期の実習について 第16週目 医療面接と身体診察11 第17週目 医療面接と身体診察12 第18週目 医療面接と身体診察13 第19週目 医療面接と身体診察14 第20週目 医療面接と身体診察15 第21週目 医療面接と身体診察16 第22週目 医療面接と身体診察17 第23週目 医療面接と身体診察18 第24週目 医療面接と身体診察19 第25週目 医療面接と身体診察20 第26週目 実習まとめ 第27週目 実習内評価試験 第28週目 実習内評価試験 第29週目 実習内評価試験 第30週目 実習振り返り、総合的なまとめ （授業の方法および自学学習について） ・実習前に指定した範囲の復習を十分に行ってから臨むこと。 ・附属接骨院内での実習となるため、別紙の注意事項を精読し、内容を順守すること。 ＊注意事項を守らない場合は欠席扱いとする ・実習記録は実習終了後１週間以内に職員室に提出すること（期限超過、内容の不備は減点とする）。 ・欠席時は成績評価から1回につき5点を減点する。 ・各自、クリップファイルを1つ準備して実習時に持参すること。									
教科書・参考書等										
成績評価の方法	欠席による減点 実習記録、課題の提出（20%） 実習内評価（80%） ※総合成績が120/200点以上を取得した場合に単位を認定する。									
実践的教育に関する経歴等	柔道整復師専科教員資格									

令和　8　年度シラバス

柔道整復スポーツ科学科

授業科目名	臨床実習Ⅱ			授業形態	実技・実習	教員名	菊地　司		
科目区分	専門分野	単位数	1　単位	時間数	45 時間	期間	通年	30 回	対象学年	2 年生
授業概要	1年次に学習した知識や技術をもとに、卒後接骨院で働く上で必要な技能の習得を図る。 本科目は接骨院内での見学実習または演習を基本とする。									
授業の到達目標	・医療従事者として適切な態度、行動をとることができる ・来院時の受付業務やベッドメイキングなどの院内環境の整備を行うことができる ・患者に対して物療機器や後療法に関する基本的な事項を説明することができる ・行った後療法についての内容や所見等をカルテに記載することができる									
授業内容・計画	（授業計画） 第1週目 オリエンテーション、臨床実習説明 第2週目 手技療法復習 第3週目 手技療法実技（基礎） 第4週目 手技療法実技（腰部） 第5週目 手技療法実技（背部） 第6週目 手技療法実技（大腿部） 第7週目 手技療法実技（下腿部） 第8週目 手技療法実技（足部） 第9週目 手技療法実技（肩部） 第10週目 手技療法実技（上腕、前腕） 第11週目 手技療法実技（頚部） 第12週目 前期総復習 第13週目 実習内評価（実技） 第14週目 実習内評価（筆記） 第15週目 前期学習内容総まとめ 第16週目 物理療法復習 第17週目 物理療法実技（基礎） 第18週目 物理療法実技GW1 第19週目 物理療法実技GW2 第20週目 物理療法実技GW3 第21週目 運動療法復習 第22週目 運動療法実技（基礎） 第23週目 運動療法実技（ストレッチ） 第24週目 運動療法実技（ファンクショナルエクササイズ） 第25週目 施術録とは、施術録の扱いと記載 第26週目 施術録の作成実習 第27週目 後期総復習 第28週目 実習内評価（実技） 第29週目 実習内評価（筆記） 第30週目 後期学習内容総まとめ （授業の方法および自学学習について） ・配布したプリント、またはホワイトボードを使用しながら授業を行うことを基本とする。＊臨床実習室 ・附属接骨院内での実習となるため、別紙の注意事項に十分に留意すること ・実習記録は実習終了後１週間以内に職員室に提出すること（期限超過、内容の不備は減点とする）。 ・実習に臨むに適切でないと判断された場合は欠席扱いとするので留意すること									
教科書・参考書等	柔道整復学・理論編 柔道整復学・実技編 解剖学									
成績評価の方法	1）出席状況・実習内提出物（20%） 2）実習内評価（40%） 3）筆記試験（40%） ＊欠席時は成績評価から5点を減点、実習レポート未提出は2点減点、遅延提出の加点はなしとする ※総合成績が120/200点以上を取得した場合に単位を認定する。									
実践的教育に関する経歴等	①整骨院勤務　②柔道整復専科教員資格　③各種トレーナー									

令和　8　年度シラバス

柔道整復スポーツ科学科

授業科目名	スポーツトレーナー演習			授業形態	講義	教員名	鈴木　拓夢		
科目区分	選択必修科目	単位数	2　単位	時間数	30 時間	期間	半期	15 回	対象学年	2 年生
授業概要	・トレーナー活動で必要な知識と技術の獲得 ・整骨院等で来院するスポーツ疾患にプラスし、慢性疾患についての説明 ・各疾患別のテーピング実習									
授業の到達目標	1. トレーナー活動で重要な対処方法ができる 2. 急性・慢性疾患に対しての説明・実践ができる 3. スポーツトレーナーとしての立場・知識を身につける									
授業内容・計画	（授業計画） 第1週目 オリエンテーション トレーナーの役割 第2週目 急性疾患の対応方法　超音波エコーについて 第3週目 足関節疾患について(鑑別と対応方法)① 第4週目 足関節疾患について(鑑別と対応方法)② 第5週目 足関節疾患の実技テスト 第6週目 膝関節疾患について(鑑別と対応方法)① 第7週目 膝関節疾患について(鑑別と対応方法)② 第8週目 膝関節疾患の実技テスト 第9週目 各種肉離れについて(鑑別と対応方法)① 第10週目 各種肉離れについて(鑑別と対応方法)② 第11週目 各種肉離れの実技テスト 第12週目 その他疾患(急性・慢性含め)① 第13週目 まとめ 第14週目 期末試験（実技） 第15週目 期末試験（実技） (授業の方法および自学学習について) ・黒板を使用し授業を行う。実技も行うためジャージ等での参加が良い ・必要な疾患はこちらで作成した資料を参考に授業を進める。 ・実技に関しては各自復習を行うこと。 ・疾患によっては超音波エコーを使いながら行います。									
教科書・参考書等	・柔道整復学（理論編）、柔道整復学（実技編）を参考書とする。									
成績評価の方法	①実技による期末試験（70%）　各疾患終了後の実技テスト(30%) ※期末試験は術者・患者の両方を行い、術者時配点（80%）、患者時配点（20%）。 ②欠席、遅刻、早退の多い学生には単位を与えない。 ※総合成績が60/100点以上を取得した場合に単位を認定する。									
実践的教育に関する経歴等	①整骨院勤務　②楽天イーグルスメディカルトレーナー　③楽天アカデミーメディカルトレーナー									

令和　8　年度シラバス

柔道整復スポーツ科学科

授業科目名	ストレングス＆コンディショニング	授業形態	講義・演習	教員名	早坂　ひとみ
科目区分	選択必修科目	単位数	2　単位	時間数	30 時間	期間	半期	15 回	対象学年	2 年生

授業概要	科学的根拠に基づいてトレーニングプログラムの作成法、指導法を知識を理解し実践できる。 トレーニング指導者に必要な基本的な知識を理解する。
授業の到達目標	科学的根拠に基づき、スポーツ種目や選手の特性に応じたトレーニング計画をたてるために必要な理論と実践力を養う。
授業内容・計画	（授業計画） 第1週目 トレーニング計画の立案 第2週目 運動生理（骨格筋系、エネルギー代謝、呼吸循環系） 第3週目 筋力向上トレーニング 第4週目 筋力向上トレーニング　実技 第5週目 パワー向上トレーニング 第6週目 持久力向上トレーニング（有酸素性、無酸素性） 第7週目 ウォーミングアップとクーリングダウン 第8週目 ウォーミングアップとクーリングダウン：実技 第9週目 柔軟性向上トレーニング：理論 第10週目 柔軟性向上トレーニング：実技 第11週目 運動と栄養 第12週目 運動と医学（整形外科的傷害と予防、生活習慣病予防、子供、高齢者） 第13週目 運動と心理 第14週目 テスト 第15週目 解答 (授業の方法および自学学習について) 授業で学習する内容に関して予習をする。 各種トレーニングは、理論をよく理解し、実際にトレーニング実技ができるよう学習する。 ※講義進行中にトレーニング法などの実技を取り入れて実施する場合もあるので、動きやすい服装で参加すること。
教科書・参考書等	①トレーニング指導者テキスト　理論編・改訂版 ②トレーニング指導者テキスト　実践編・改訂版 ③トレーニング指導者テキスト　実技編・改訂版　及び、配布資料
成績評価の方法	①期末テスト 60%（60点） ②出欠席20%(20点)※欠席－6%（－6点）遅刻－2%（－2点） ③小テスト（実技）10%(10点)　合格基準点以下のものは－10%(-10点)とする ④準備物(テーピング・運動着・インシューズ)10%(10点)※1回忘れたら-2%(－2点)とする。 上記項目が60%(60点)以上とする。
実践的教育に関する経歴等	①柔道整復師、②接骨院開設、③JATI-AATI、④NSCA-CPT、⑤日本赤十字社救急法指導員 ⑥高校レスリング部トレーナー、⑦高校男子バスケットボール部トレーナー、⑧山形県国体チームトレーナー

令和　8　年度シラバス

柔道整復スポーツ科学科

授業科目名	アスレチックトレーニング			授業形態	講義・演習	教員名		早坂　ひとみ	
科目区分	選択必修科目	単位数	2　単位	時間数	30 時間	期間	半期	15 回	対象学年	2 年生
授業概要	・アスレティックトレーニング及びアスレティックトレーナーの任務と役割、具体的な業務内容について学ぶ。 ・サポートスタッフ、メディカルスタッフの構成メンバーとその役割について学ぶ。 ・スポーツの組織とその運営について学ぶ。								
授業の到達目標	・アスレティックトレーニング及びアスレティックトレーナーの任務、役割、具体的な業務について学ぶ。 ・コーチ、スポーツドクターの役割とアスレティックトレーナーとの連携について理解し、状況に応じて、行動、正しく判断できるようになる。 ・アスリートに対して、サポートを行うための知識を身につけ、実践できるようになる。								
授業内容・計画	（授業計画） 第1週目 アスレティックトレーニングとはアスレティックトレーナーの業務 :①スポーツ傷害（分類、メカニズム）　②傷害の評価 第2週目 アスレティックトレーナの業務:①スポーツ現場における救急処置　②スポーツ外傷・障害の予防と防具　③アスレティックリハビリテーション　④コンディショニング 第3週目 アスレティックトレーナの業務:測定と評価 第4週目 防具、補装具　理論及び実技:テーピング（手関節、指関節） 第5週目 防具、補装具　実技:テーピング（アーチ、踵部、 第6週目 防具、補装具　実技:テーピング（足関節） 第7週目 防具、補装具　実技:テーピング（下腿、アキレス腱） 第8週目 防具、補装具　理論及び実技:テーピング（膝関節） 第9週目 防具、補装具　実技:テーピング（肘関節） 第10週目 防具、補装具　実技:テーピング（肩関節） 第11週目 防具、補装具　実技:テーピング　復習 第12週目 防具、補装具　実技:テーピング　復習 第13週目 防具、補装具　実技:テーピング　テスト 第14週目 テスト 第15週目 解答 (授業の方法および自学学習について) 事前に配布された資料を精読しておく。 授業後、特に実技に関しては、理論を熟知し、実際に測定、テーピング出来るよう学習する。 ※講義進行中にテーピングやトレーニング法などの実技を取り入れて実施する場合もあるので、動きやすい服装で参加すること。必要なテーピングの種類や実施時期については授業内で説明する。								
教科書・参考書等	①財団法人　日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー　専門科目テキスト1　アスレティックトレーナーの役割 ②財団法人　日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー　専門科目テキスト6　予防とコンディショニング ③配布資料								
成績評価の方法	①期末テスト 60%（60点） ②出欠席20%(20点)※欠席－6%（－6点）遅刻－2%（－2点） ③小テスト（実技）10%(10点)　合格基準点以下のものは－10%(-10点)とする ④準備物(テーピング・運動着・インシューズ)10%(10点)※1回忘れたら-2%(－2点)とする。 上記項目が60%(60点)以上とする。								
実践的教育に関する経歴等	①柔道整復師、②接骨院開設、③JATI-AATI、④NSCA-CPT、⑤日本赤十字社救急法指導員 ⑥高校レスリング部トレーナー、⑦高校男子バスケットボール部トレーナー、⑧山形県国体チームトレーナー								